

# 情報通信事業

安定的な収益事業でのさらなる収益力強化を図るとともに、IoTをベースとした従来の枠にとられない新たなソリューションを創出し持続的な成長を目指します。

売上高  
構成比

39.0%

### ●2015年度の実績

売上高は、前期比14.3%減少の1,912億円となりました。企業向けソリューションでは、国内金融機関向けシステムが需要の前倒しなどもあり好調でした。法人向けにも新規案件の獲得などが進んだことなどにより、順調に推移しました。通信システムでは、通信キャリアによる既存ネットワーク機器への投資が終息したことから、当該案件の売上が当第1四半期で終了したことの影響が大きく、減収となりました。社会システムでは、航空管制システムや市町村向け防災システムなどの引き合いが堅調に推移しました。一方、消防無線のデジタル化需要が前期でピークアウトとなったことから、全体では減収となりました。

営業利益は116億円(営業利益率6.1%)となりました。物量減の影響を大きく受けたものの、構造改革の進展や固定費などの削減による効果もありました。

### ●2016年度の見通し

2016年度は、日本国内では景気の穏やかな回復基調が継続するものと思われます。政府の成長戦略により、社会イ

ンフラ投資全体は引き続き堅調に推移し、民間設備投資も穏やかに増加して、全般的に堅調な事業環境が予想されます。さらに、インフラ維持管理、労働力不足、医療介護、防災・減災などの社会的課題の解決に対するニーズが一層高まるほか、IoTなど新技術への取り組みも今後活性化し、成長領域へと発展していきます。

このような事業環境を背景に、2016年度は、航空管制や道路などの交通インフラ関連システムを中心に堅調に推移すると想定しています。企業向けソリューションにおいても、運輸、流通、製造業向けシステムの案件増加を見込んでいます。一方、官公庁関連システムでは大型案件が減少し、防災システムでも消防デジタル無線の更新需要の一巡により減収の見込みです。

情報通信事業では、安定的な収益事業についてはより磐石なものとし、リソースの最適配分を通じてさらなる収益率の向上を目指します。また、IoTをベースとした、従来の枠にとられないソリューションによる、新たな成長事業創出への取り組みを加速します。

## TOPICS

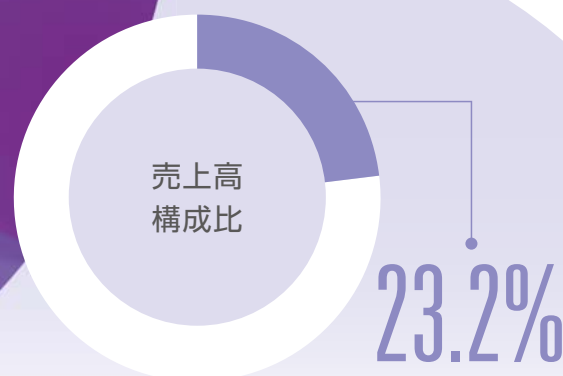
### ドローン探知システムを発売

空中音響技術を利用し、飛来するドローンを昼夜問わず探知できる「ドローン探知システム」を発売しました。本システムは、ドローンの飛行音を収集・分析して接近を探知するほか、飛来する方位・仰角・距離を測定、通知することができます。また、カメラを組み込むことによる映像での確認、探知範囲の拡大やネットワークを使った遠隔監視など、要望に応じた柔軟なシステム設計を行うことが可能です。



# メカトロシステム事業

ATM事業のグローバル展開をさらに加速するとともに、国内市場での現金処理機の拡販に注力し、収益基盤の強化を図ります。



## ●2015年度の実績

売上高は、前期比11.3%減少の1,137億円となりました。海外向けATMでは、中国の販売パートナーに対する売上債権について債務の不履行が発生したことから、2015年6月から新規出荷を停止しました。債務の履行を求めた仲裁手続きを継続しています。この影響により中国での売上が大きく減少しましたが、販売パートナーを経由しないOKIブランドの直接販売については順調に推移しました。新興国での事業については、ブラジルでは現地経済が減速し、その影響により顧客が投資抑制をした結果、減収となりました。その他の地域においても、景気減速や顧客都合による納入延期などにより、ATM販売台数は想定を下回りました。一方国内では、流通業やサービス業向けの現金処理機の売上が大きく伸びました。また、金融機関向けの営業店端末についても好調でした。

営業利益は、60億円(営業利益率5.3%)となりました。国内での事業は全般的に好調でしたが、海外での物量減が大きく影響しました。

## ●2016年度の見通し

新興国の一部に景気減速の影響が見られるものの、グローバルな視点で見ればATMの潜在需要はまだ大きく存在しています。2016年度の海外向けATMは、中国では新たな販売パートナーと契約を結び、販売体制を再構築していきます。OKIブランド商品の販売については、前期の売上増の反動減を織り込み、全体としては台数の減少を見込んでいます。ブラジルでは経済環境の厳しさが継続するものと想定しますが、前期に受注した国営銀行向けの大型案件の出荷が始まり、業績の良化に貢献すると見えています。海外向けATM事業については、中国やブラジル以外の地域について拡大を見込み、引き続きグローバルに成長を目指します。国内市場については、前期の好調が持続する見込みで、現金処理機の販売はさらに増加する計画です。

収益については、ブラジルでの大型案件の出荷による改善が見込まれるものの、中国向けATMの台数減により全体では前年並みを見込んでいます。

## TOPICS

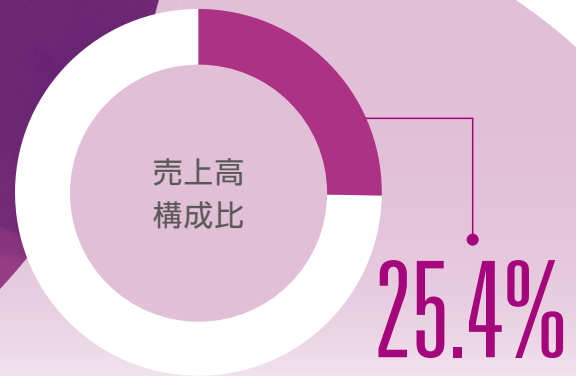
### 省スペース入出金機「USCOSII-CV」を発売

小規模小売店舗向けに、現金管理の厳正化と管理者作業の効率化をサポートする省スペース入出金機「USCOSII-CV」を発売しました。「USCOSII-CV」は、中型入出金機と小型紙幣硬貨つり銭機の基本機能を備えながら設置幅42cmという省スペース化を実現したことにより、従来の入出金機では導入できない小型店舗にも導入可能となりました。また、誰にでも簡単に使える操作性を備えており、管理者の作業負担を軽減します。



# プリンター事業

高付加価値商品の販売強化に加えて、グローバルにニッチ市場を開拓し収益力の強化を図ります。



## ●2015年度の実績

売上高は、前期比3.6%減少の1,246億円となりました。LEDプリンターでは、最も注力してきたカラーMFPなどの高付加価値の戦略商品については、販売サポート体制を強化した効果もあり、概ね堅調に推移しました。一方で既存商品については、オフィス向けのカラーSFPを中心に市場全体の縮小が継続しました。さらに、価格競争も激化したことに対して、相対的に価格水準を維持したことから、販売台数が減少しました。しかし、第2四半期の半ば以降には、価格対応の見直しを選択的に行ったこともあり、販売台数の減少には歯止めがかかりました。また、2015年10月1日にはセイコーインスツル株式会社から大判プリンター事業を取得しました。

営業利益は、前期比53億円減少の14億円となりました。既存商品の物量減少や価格競争の影響は、高付加価値品の増加による機種構成の良化により、一部吸収できたものの、為替の影響は前期比で46億円の減少要因となりました。

## ●2016年度の見通し

2016年度のプリンター市場はワークスタイル、ITインフラの変化に加え、モビリティ浸透による印刷需要減少を主因に、オフィス市場のプリントニーズの減少が続き、価格競争も厳しさが継続するものと予想されます。そのような環境の中、OKIのプリンター事業は、欧米での販売チャネル支援体制の強化の結果、戦略商品の販売が拡大し機種構成が改善しています。今後は、機種構成に加えて、医療やデザインといった特定業種の市場を開拓し、グローバルにニッチ戦略をより一層深化させて販売増を目指します。また、前期に取得した大判プリンター事業が通期で業績に貢献します。同事業との販売シナジー効果を見込み、プロフェッショナル市場での販売を拡大していきます。収益については、販売台数の増加と機種構成のさらなるハイエンドシフトにより、増加を見込んでいます。

## TOPICS

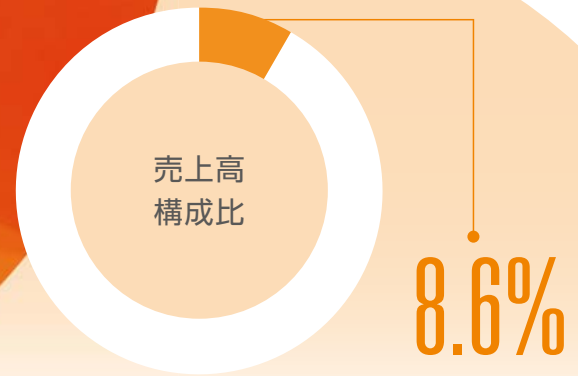
### 大判プリンター事業会社を設立

セイコーインスツル株式会社がグローバルに展開していた大判プリンター事業を取得し、2015年10月1日に株式会社OKIデータ・インフォテックを設立しました。大型インクジェットプリンターをはじめとする新たな技術・開発力や、商品ラインアップ、販売チャネルを獲得したことで、印刷・流通・小売業界向けにワンストップ・ソリューションを提供し、プロフェッショナル市場でのプリンター事業強化を図ります。



# EMS事業

高品質、高信頼性、多品種少量生産の特長を活かし、OKI独自のハイエンド型EMSのさらなる事業拡大を図ります。



## •2015年度の実績

売上高は、前期比5.1%増加の424億円となりました。2015年4月1日付で横河電機株式会社より取得した横河マニファクチャリング株式会社青梅事業所の取得効果もあり、特に回路基板事業が順調に推移しました。また、産業機器市場向けや計測機器市場向けでは新規顧客の獲得などにより増収となりました。一方で、通信機器市場向けの売上は、エンドユーザーの投資抑制影響を受け減少しました。

営業利益は、物量増などにより前期比3億円増加の23億円となりました。

## •2016年度の見通し

EMS事業は、創業以来増収増益を継続しており、2016年度も新規顧客の獲得や既存顧客からの新規案件の獲得による増収を見込んでいます。また、過去に行ってきたようにM&Aの機会も活かし、事業の拡大を今後も継続していきます。収益については、新規顧客、新規案件による売上増による利益の拡大を見込んでいるほか、新規開拓を行う中で各案件の収益性を吟味し、一定の収益率の維持を図ります。

## TOPICS

### 高速高周波対応の 高多層銅コインプリント配線板 量産技術を確立

OKIサーキットテクノロジーは、「高速高周波対応銅コイン埋め込み高多層プリント配線板の設計・量産技術」を開発しました。スルーホールに円柱状の銅(銅コイン)を挿入し圧力負荷の少ない独自の工法で隙間なく埋め込むことで、少ない穴数でより多くの熱伝導領域を確保し放熱性能を20倍に向上させました。また、長寿命で高信頼性を実現した新技術「T-Coin(Technology of copper Coin insert)構造」(ティーコイン構造)の開発に成功しました。

